

凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第33号 2024. 2. 16 (金)

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

『生徒指導2月目標』心を傾けて聴く 聴く力＝傾聴力

【凡事徹底】意識するポイント ①姿勢を整え相手を見て
②相手の話に共感しよう ③心で受け止め自ら動こう

体育館へ向かう廊下は未来への滑走路～お別れの日が近づいてきました～

いよいよお別れの日（卒業証書授与式）が近づいてきました。3年生のみなさんが第一中学校に登校できる日数も、残り14日となりました。3年生のみなさんに生徒指導通心を渡せるのも、残り3回となりました。心を込めて書きます。この1年間、この通心を手にとり読んでもらうことで、少しでも「心が成長」、「心が晴れやか」になってくれたのであれば嬉しい限りです。

みなさんは、小学校の頃からコロナ禍の影響を受け、様々な制限を受けながら生活してきました。しかし、そのような中でも、見事に成長した誇らしい一中生でした。これから残り14日間、後期選抜試験はもちろんのことながら、「卒業証書授与式」＝義務教育9年間の集大成に向けた最後の学習が始まります。卒業式当日、みなさんにとって、「体育館へ向かう廊下は、未来への滑走路」です。体育館に胸を張って堂々と入場する姿を楽しみにしています。一中の未来を担う1、2年生も、これから3週間、同じ気持ちで毎日の学校生活を過ごしてほしいと思います。

実るほど頭(こうべ)を垂(た)れる稲穂かな ～ 感謝できる人＝誠実な人～

私達は大きなことには感謝できますが、小さなことにはなかなか感謝できにくいものです。例えば、「命を助けてもらった」等のことには誰もが感謝をします。しかし、レストランでお水を注いでもらった時に、「ありがとうございます」と心を込めて伝えている人は少ないような気がします。ささいなことだから、当たり前のことだからと思っている人はなかなか感謝の心が芽生えないのかもしれない。そして、「小さなこと」や「当たり前のこと」に感謝できる人は、誠実な心がある人、まさにみなさんのことだと思います。

まさに、3年生にとっては節目の時。これまでの感謝を伝える時ですね。

ある年のこと、面接に来た学生に向かって、「君はお母さんの足を洗ったことがあるかね？」と社長が聞きました。その学生は正直に、「洗ったことはありません」と答えました。それからいろいろと質問した後、社長さんは見どころがあると思ったのでしょう。「君、〇月〇日までにお母さんの足を洗ってからもう一度この会社へ来てくれ」と言ったそうです。

学生は実家に帰ったとき、お母さんの足を洗おうと思いました。ところが、いざ母親の足を目の当たりにすると目頭が熱くなり、その足にしがみついて泣き出してしまったそうです。

学生は約束の日会社へ行き、社長さんにそのことを話しました。「私の父は戦争で亡くなりました。母は女手一つで私を大学まで出してくれました。こんなに足をヒビだらけにして、どんなに苦労したんだろうと思うと、母の苦労が身にしみるようによく分かりました。私は故郷で母と一緒に暮らしていきたいと思います。ありがとうございました。」

(日本経済新聞2017年2月27日号より)

「夢実現・自己実現」コーナー鉄板ルール 頼まれ事は試され事

これまでの経験上、人は出来そつにないことを自分に頼んではこない。それであれば、頼まれた事は片っ端から0.2秒の返事で引き受けよう。そしてやる以上は全力で相手の予測を上回ろう。質、量、スピード…。上回れば上回るほど相手の心を動かすことができるのではないかと思います。